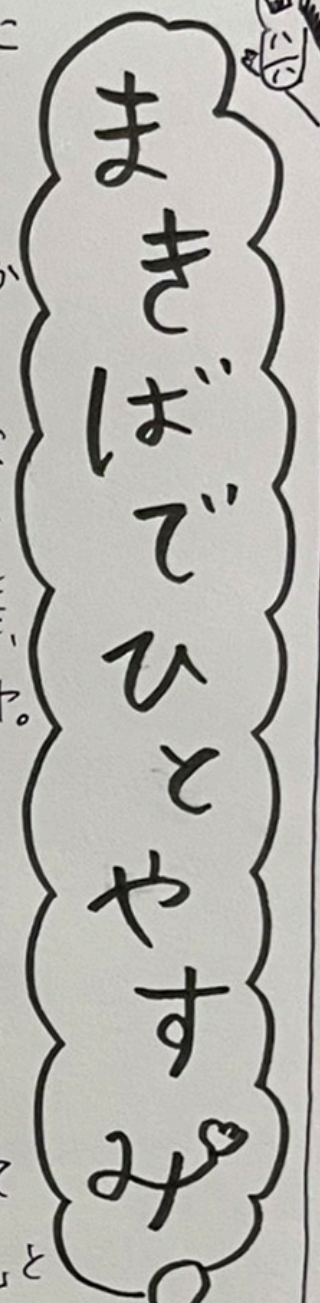


5才の娘が、先日や、とこ自転車に乗れるようになりました。近所のグラウンドで練習を重ねて、乗れるようになったからは楽しくて仕方ないようで、毎日のように「自転車の練習！」とせがまれ、私か夫がそれに付き合いました。そして、ついに昨日、公道デビューし、うちから5分程の所にある大きな公園に向かってみることに...！出てみると、グラウンドで走ってた頃にはなかった、少しの坂道や段差、曲がり角が何と恐ろしいものか！と何度もヒヤヒヤ。ブレーキが使い慣れないために植え込みや壁にぶつかったり、倒れかけたり。人にぶつからなくて本当に良かった、と思う反面、全く気にすることのなかった小さな障害物が多くあることに気が付きました。同日、11才の長男は、同級生の友人6人と共に10km程離れた公園までサイクリングに出かけていました。初めて「自分たちでコンビニでお昼を買う」という体験付きで。朝出かけ、夕方ケガもなく無事に帰宅し、楽しかった話を聞く中で、親がいなくても自分たちでそこまで出来るようになったことに大変胸が熱くなったのでした。6年という月日の大きさも実感しました。あんなにヒヤヒヤするような状態から、随分遠い所まで見守りなしでもそれ程心配することなく送り出せるようになること...。子どもたちの信仰の成長もまた、そのようであってほしいなあと思いました。最初は色々なことにぶつかったり、つまづいても、そのうち一人でしっかり歩めるようになる...もちろん神様が一緒にいるから大丈夫、という安心感があるからこそなのですが。子どもの姿はいつも色々なことを学ばせてくれます。



まきばでひとやすみ

